

第2学年1・2組女子 保健体育科学習指導案

高松市立協和中学校 島本 千春

1 単元名 武道「剣道」

2 単元について

(1) 剣道は竹刀を使って、基本となる技や得意技を用いて相手と攻防を展開しながら、互いに「有効打突」を目指して相手の構えを崩して打ったり、受けたりして勝敗を競い合う運動である。相手の動きに応じて、身に付けた技を使ってうまく相手に攻撃することができたり、相手の技を受けることができたときの楽しさや喜びは、他の運動領域では味わうことのできない魅力の一つである。対人競技である剣道を通して、剣道の礼法や相手を思いやる態度や尊重する態度を養い、日常生活での人間関係形成にも影響を与えることのできる意義のある題材である。

また、日本の伝統的運動文化である剣道を学ぶことで、剣道の歴史だけでなく武道の伝統的な考え方を理解することができ、生徒一人一人のスポーツへの見方や考え方に広がりが出てくると考える。

(2) 本学級の生徒は、女子31名で構成されている。全体的に明るく素直な生徒で、与えられた課題に対して意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、全体で動くことはできるが、少人数になると消極的である。第1学年では、伝統的な考え方や行動の仕方(礼儀の尊重)・剣道具の装着・基本動作、基本打突を学習している。事前アンケートでは、4割の生徒が剣道の授業が「好き」「どちらかと言えば好き」と答え、6割の生徒が「どちらかと言えば嫌い」「嫌い」と答えた。剣道が好きでない理由として、「臭かった」「怖かった」「難しかった」「剣道具が重かった」という理由が多かった。一方、剣道をやってみて楽しかった事、うれしかった事の回答は、「剣道の技を学んだこと」「剣道具をつけたこと」「新聞を切ったこと」などが多かった。また、2年生での剣道の授業でしてみたいこと、できるようになりたいことへの回答は、「たくさんの技に挑戦したい」「試合をしたい」「剣道具を素早くつけたい」等の意見が多く、否定的な意見をもちながらも剣道の学習に対して前向きな生徒が多くいることもわかった。

(3) 第1学年で学習したことを踏まえ、第2学年ではより対人性を意識し、相手の動きに応じた技に挑戦できるようにする。既習の技である「しかけ技」と「応じ技」とを関連付け、基本となる技の復習にも意欲的に取り組むことができるようにする。また、単元を通して同じグループでの活動を行うようにし、なかまと協力して、教え合ったり、お互いの課題を見つけ合ったりできるようにする。グループ内での対人練習等で、立礼や相手を意識した打ち方、練習相手の重要性等を取り上げ、相手を尊重する態度や感謝の気持ちを養うことができるようにする。

そのほか、以下の点に留意して指導を行う。

- 意欲的に活動するために、授業展開の導入部分で剣道じゃんけん・手ぬぐい切り・タッチ剣道などの体ほぐしの運動を取り入れる。
- 基本となる技の習得の際、動きの掲示資料や師範の動きからだけではなく、練習を行いながら視覚的に分かりやすくするために、胴や竹刀等にテープを貼り、竹刀の打突部や打突部位を意識できるようにする。
- 生徒の思考を深めたり、広げたりできるように、単元を通して同じメンバーでのグループ活動を行い、「きく」「つなぐ」「もどす」の場面を設定する。
- 事故なく安全に行えるように、防具や竹刀の扱い方、活動の仕方をグループごとに確認する時間を設定する。

3 単元の目標

- 相手を尊重し伝統的な行動の仕方を守りながら、剣道の学習に意欲的に取り組むことができる。
- 基本動作や基本となる技を習得するために、自己の課題を見付けたり、課題解決の方法を考えたりすることができる。
- 相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて攻防することができる。
- 剣道の特性や成り立ち、伝統的な考え方や技の名称や行い方などを理解することができる。

4 単元の評価規準

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
剣道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする。また、分担した役割を果たそうとしたり、健康や安全に留意しようとする。	基本動作や基本となる技を習得するための稽古の仕方や課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防ができる。	剣道の特性や成り立ち、伝統的な考え方や、技の名称や行い方、さらに関連して高まる体力などの知識を身に付けている。

5 学習指導計画（全8時間）

6-① 1時間目の学習指導

(1) 1時間目の目標

- 相手を尊重し、剣道の学習に積極的に取り組むことができる。

(2) 準備物 教師…剣道具（胴・垂）・学習カード 生徒…手ぬぐい・筆記用具

(3) 学習指導過程 (○配慮事項 ●おおむね満足できると判断できる状況 [] 評価方法)

学習内容及び活動	指導上の留意点及び評価
<p>1 1年時の振り返りをする。</p> <p>(1) 剣道を学習する意義やねらい</p> <p>(2) 1年時の学習の確認</p> <p>①学習した技について</p> <p>②剣道具（胴・垂）の装着の仕方について</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>○ 1年時の学習を振り返り、現段階での剣道のイメージや捉え方を問う。楽しい、難しい等の意見に対しては、「どんなところが？」と問い、具体例で発言できるように支援する。</p> <p>○ 1年時の技や動きを思い出すために、教師が動きを示したり、簡単に体を動かしたりする。</p> <p>○ お互いにきちんと装着できているか等を確認し、活動時は、仲間同士で安全にも留意するように促す。</p>
<p>剣道とはどんなスポーツなのか。</p>	
<p>3 相手との攻防やかけひきについて考える。</p> <p>(1) 試合の映像を視聴する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の試合映像を見る。 <p>(2) グループに分かれ、簡単な役割を決める。</p> <p>(3) 簡単なゲームを行う。</p> <p>①剣道じゃんけん</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「ヤー」と声を出して、自分の面・胴・小手をおさえる。相手の動きにつられないように違う場所をおさえる。</p> </div> <p>②手ぬぐい切り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>手ぬぐいを手でぶら下げないようにもち、離された手ぬぐいを地面に着く前に、胴打ちのように手刀で切る。</p> </div> <p>③タッチ剣道</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「ヤー」と声を出して、相手の面・胴・小手にタッチする。守る方はタッチされないように防ぐ。</p> </div>	<p>○ 1年の時に学習した面、胴、小手の技がどのように使われているか考えさせるために、試合映像を見せる。剣道の攻めには「相手とのかけひき」が大切なことに気付かせ、2年時の学習の見通しをもたせる。</p> <p>○ グループを発表し、単元を通して同じグループで学習することを伝え、お互いに協力したり、高め合ったりするように促す。</p> <p>○ ゲームの始まりと終わりには必ず立礼を行い、相手がいないと練習や試合ができないことを伝え、その気持ちを形（立礼）で表すように助言する。</p>
<p style="text-align: center;">運動への関心・意欲・態度</p>	
<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>学習カードに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の終末にどのようなことができるようになりたいか。 ・本時の中で気付いたこと 	<p>● 立礼をきちんと行い、相手を尊重して、学習に意欲的に取り組もうとしている。 [観察]</p> <p>○ 相手とのかけひきを行うには、どこをどのように見たり、感じたりすればいいか考えさせる。</p> <p>○ 活動が活発に行われるように、教師が意図的に励ましたり、個人の工夫点を全体に広げたりしながら指導を行う。</p> <p>○ ゲームをしない生徒には、ゲームを応援しながら、周囲の生徒とぶつからないように、安全に配慮するように促す。</p> <p>○ これからの学習の見通しをもたせ、どんなことができるようになればさらに剣道が楽しくなるのか考えさせる。</p>

6-② 2時間目の学習指導

(1) 2時間目の目標

- 基本打突（面，小手，胴）を打つためのポイントを見つけることができる。

(2) 準備物 教師…剣道具（胴・垂）・学習カード 生徒…面・胴・垂・手ぬぐい・筆記用具

(3) 学習指導過程 (○配慮事項 ●おおむね満足できると判断できる状況 [] 評価方法)

学習内容及び活動	指導上の留意点及び評価
<p>1 前時の振り返りをする。</p> <p>(1) 剣道を学習する意義やねらい，礼法の確認</p> <p>①剣道の礼法について</p> <p>②剣道具（胴・垂）の装着</p> <p>2 基本動作を確認する。</p> <p>(1) 足さばきの動き</p> <p>・歩み足と送り足の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「道場の端から端までを10秒かけて歩み足をする」など時間で動きの速さを調整して，様々な足さばきの動きを体感する。習熟度によってはリレーを行う。</p> </div> <p>(2) 自然体，中段の構え，正面素振り（上下振りとななめ振り）を行う。</p> <p>3 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>○ 前時の学習を振り返り，最近の剣道の話やトピックを紹介する。武道特有の礼法やマナーについても反復しながら，確認する。</p> <p>○ お互いにきちんと装着できているか等を確認し，活動時は，仲間同士で安全にも留意するように促す。</p> <p>○ 足さばきの足の動きと，姿勢に重点を置き，基本打突につながる動きであることを考えさせる。</p> <p>○ リズムのある動きにつながるように，太鼓や笛など生徒の動きを促す教具を用いて指導を行う。</p> <p>○ 教師が個人の工夫点を全体に広げたり，意欲的に取り組む生徒の動きを解説したりしながら指導を行う。</p> <p>○ 対人の活動の際は，必ず立礼を行い，活動の始まりと終わりを明確にする。</p>
<p>基本打突（面，小手，胴）を打とう。</p>	
<p>4 基本打突の動きを確認する。</p> <p>(1) 模範を示し，打ち方や打たせ方を確認する。</p> <p>ペアと4人組のグループを決める。</p> <p>(2) 基本打突を練習する</p> <p>① 1人</p> <p>② ペア</p> <p>③ 4人組と個人からグループ学習へ展開する</p> <p>（その場打ち→踏込動作→残心）</p> <p>(3) 4人組の基本打突の発表</p> <p>5 本時のまとめをする。</p> <p>学習カードに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本打突の動きのポイントを確認する ・ 本時の中で気付いたこと 	<p>○ 「1人」は基本動作，「ペア」は対人の動きの流れを確認する。「4人組（1人が受け，3人が打つ）」で自身とグループのメンバーの動きの違いに気付かせ，動きのポイントを反復させる。</p> <p>○ ペア，4人組では，自発的な動きに慣れてきたら，かけひきを意識させるため，受け手が竹刀を振り上げるなどの動作を始点にして，打ち手が動き出すように指導する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>運動の思考・判断</p> </div> <p>● 相手の動きに合わせた基本打突ができる。[観察]</p> <p>○ 4人組で発表することで動きのポイントの理解度を見ることを伝え，お互いに協力したり，高め合ったりするように促す。</p> <p>○ 本時の学習が，どのようにしかけ技へつながっていくか，次の授業で行う内容を紹介して見通しを立てさせる。</p>

6-③ 3時間目の学習指導

(1) 3時間目の目標

- どうすれば連続技（小手面）を有効打突にできるかを説明することができる。

(2) 準備物 教師…剣道具（胴・垂）・学習カード 生徒…剣道具（胴・垂）・手ぬぐい・筆記用具

(3) 学習指導過程 (○配慮事項 ●おおむね満足できると判断できる状況 [] 評価方法)

学習内容及び活動	指導上の留意点及び評価
<p>1 防具の着装，竹刀・剣道具の点検を行う。</p> <p>2 基本練習をする。 (1)すり足（前進後退左右） (2)正面素振り（前後交代）</p> <p>3 連続技（小手面）の練習をする。</p>	<p>○ 竹刀や剣道具の点検を十分に行い，安全面に配慮するよう呼びかける。</p> <p>○ 大きな動作でのびのびと，また正確に基本動作や素振りをするよう指示する。</p> <p>○ 振りかぶりと打ちが一拍子になるように打たせるために，余分な力を抜くよう呼びかける。</p> <p>○ 上下素振りで呼吸を整えさせる。</p> <p>○ 小手を打たせたあと，一步後退し，面を打ちやすいようにさせる。</p> <p>○ 小手を打つ場合，小手に目に移りやすいので相手の目を見るように指示する。また，左足が残りやすいので，素早く引きつけて次の体勢をつくらせる。</p>
<p>判定試合で小手面を決めよう。</p>	
<p>4 判定試合のルールを説明する。 ・有効打突の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①気迫のある声が出ているか。 ②右足を踏み込み，竹刀の打突部で打突部位を正しく打っているか。 ③打突後，気を抜かずに残心までおこなえているか。</p> </div> <p>5 判定試合をする。（小手面） 4人で1グループ ① 先に打つ人 ② 後から打つ人 ③ 判定者（2人） ・判定者は審判旗を持ち，それぞれのポイントができていれば赤旗を挙げる。</p> <p>6 本時のまとめをする。 学習カードに記入する。 ・連続技（小手面）のポイント ・本時の中で気付いたこと</p>	<p>○ 有効打突の条件を分かりやすい言葉にし，カードにして提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな声 ・ 右足踏みつけ…素早く引きつける ・ 面小手胴打ち…正しい部位を打つ ・ 残心 <p>○ 師範したり，ビデオを見せたりすることで，映像としてイメージしやすいようにする。</p> <p>○ 相手を尊重した態度で行わせる。</p> <p>○ 勝敗にとらわれず，正しい姿勢や動作，試合態度に十分気をつけさせる。</p> <p>○ 判定に迷っているグループには，教師も判定に加わり一緒に行う。</p> <p>○ 学習カードにより本時のまとめをさせる。</p> <p>運動についての思考・判断</p> <p>● 連続技（小手面）のポイントをふまえ，どうすれば有効打突になるかを考えることができている。</p> <p style="text-align: right;">[ワークシート]</p>

6-④ 4時間目の学習指導

(1) 4時間目の目標

- 基本打突（面・胴・小手・小手面）を決めることができる。

(2) 準備物 教師…剣道具（胴・垂）・学習カード 生徒…剣道具（胴・垂）・手ぬぐい・筆記用具

(3) 学習指導過程 (○配慮事項 ●おおむね満足できると判断できる状況 [] 評価方法)

学習内容及び活動	指導上の留意点及び評価
<p>1 防具の着装・竹刀・剣道具の点検を行う。</p> <p>2 基本練習をする。 (1)正面素振り (2)連続素振り（30秒） (3)基本打突（面・胴・小手）</p> <p>3 連続技（小手面）の復習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 竹刀や剣道具の点検を十分に行い，安全面に配慮させる。 ○ 大きな動作でのびのびと，また正確に基本動作や素振りをするよう呼びかける。 ○ 余分な力を抜くようにさせ，振りかぶりと打ちが一拍子になるように打たせる。 ○ 竹刀を振る時には，他のペアとぶつからないように周りを確認し，安全に配慮しながら行うように促す。 ○ 小手を打たせたあと，一歩後退し，面を打ちやすいようにさせる。 ○ 前回の小手面の受け方のポイントを確認し，相手が正しく打てるようにする。
<p>習った技を使って有効打突を決めよう。</p>	
<p>4 判定試合のルールを確認する。 ・有効打突の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①気迫のある声が出ているか。 ②右足を踏み込み，竹刀の打突部で打突部位を正しく打っているか。 ③打突後，気を抜かずに残心までおこなえているか。</p> </div> <p>5 判定試合をする。（4人1グループ） ①面 ②胴 ③小手 ④小手面 ・判定者は審判旗を持ち，それぞれのポイントができていれば赤旗を挙げる。 ・相手をかえて行う。</p> <p>6 本時のまとめをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「気・剣・体」の一致を確認すると同時にもう一度，判定ポイント②を説明する。 ○ 前回から進み，技を仕掛けるタイミングは打つ人が決める，というルールの変更を伝える。 ○ 相手を尊重した態度で行わせる。 ○ 勝敗にとらわれず，正しい姿勢や動作，試合態度に十分気をつけさせる。 <p>運動の技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大きな声を出して，右足を踏み込み，基本打突（面・胴・小手・小手面）を打つことができる。[観察] <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習カードにより本時のまとめをさせる。 ○ 基本打突は，試合中になかなか決まらないことを確認し，既習のしかけ技が使えることを説明する。また，他の方法もあることを言い，次の授業へとつなげる。

6-⑤ 5時間目の学習指導

本時

(1) 5時間目の目標

- 相手を尊重し、積極的に剣道の学習に取り組むことができる。
- 面に対して体をさばき、胴を打つことができる。

(2) 準備物 教師…剣道具（胴・垂）、学習カード、プロジェクター、スクリーン

生徒…手ぬぐい、ファイル、筆記用具

(3) 学習指導過程 (○配慮事項 ●おおむね満足できると判断できる状況 [] 評価方法)

学習内容及び活動	指導上の留意点及び評価
<p>1 準備運動をする。</p> <p>①体操</p> <p>②スキルチェック</p> <p>2 映像から技を分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一本に決まった映像から何の技が決まったのかを考える。 <p>3 本時の学習内容と課題の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 竹刀を振るときには、他のペアとぶつからないように周りを確認し、安全に配慮しながら行うように促す。 ○ どんな技が一本に決まっているかを分析できるように、見るポイント「基本打突(面)に対して何の技を打っているか。」を伝える。 ○ 生徒が見つけた技を解説し、既習技のしかけ技と応じ技を理解させ、本時の学習課題につなげる。
<p>面抜き胴を相手の動きに応じて決めよう。</p>	
<p>4 面抜き胴の練習をする。</p> <p>① 教師の号令に合わせて一斉に練習を行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「1」…振りかぶる</p> <p>「2」…打ち込む</p> <p>「3」…抜き切る</p> </div> <p>② 相手の動きに合わせてペアで練習を行う。</p> <p>5 グループごとにポイントの判定を行いながら、面抜き胴の練習をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【判定ポイント】</p> <p>① 気迫のある声が出ているか。</p> <p>② 相手の打ち込みに対して、体を斜め前に大きく踏み出すことができているか。(胴の印の部分に竹刀の打突部が当たっているか。)</p> <p>③ 打突後、気を抜かずに残心まで行うことができているか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4人1組で行う。(2人が審判) ・ 審判Aはポイント①、ポイント③を担当し、審判Bはポイント②を担当する。できていると判断したら赤旗をあげる。(審判Aは①③ともにできていると赤旗をあげる) <p>6 本時のまとめをする。</p> <p>① グループで良かった点と判定ポイントができていたかをホワイトボードに記入する。</p> <p>② 個人で学習カードに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師が面抜き胴の模範演技を行い、生徒にイメージをもたせる。互いの間合いや打つ機会、体を右斜め前に出すタイミングを「1」「2」「3」のリズムで行うように指導する。 ○ 相手の動きに合わせることができると、「手元が上がった瞬間」に意識をおくように助言する。動きを合わせることができない生徒には、動き出す前に声を出すように指導し、段階的に練習できるようにする。 ○ 竹刀の打突部で胴を捉えることができない生徒には、両肘を伸ばして胴の印の部分に当たるように、足幅を調節するように助言する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">運動への関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 立礼を正しく行い、ペアで声をかけ合いながら、意欲的に取り組もうとしている。 [観察] ○ 「気・剣・体」の一致を確認すると同時に、判定ポイント②を説明する。 ○ 判定に迷っているグループには、教師も判定に加わり3人体制で判定を行うようにする。 ○ 積極的に意見を出し合いながら練習しているグループ等を意識的に賞賛し、活発な学習活動が行われるようにする。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">運動の技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 面に対して、体を右斜め前にさばいて、胴を打つことができる。 [観察] ○ 判定ポイント②ができていれば、「どのように工夫したら上手く打てたか。」を記入させる。 ○ 友だちからのアドバイスを参考に次の課題を記入させる。 ○ グループのホワイトボードを黒板に貼り、工夫点や課題を全体で共有できるようにする。

6-⑥ 6時間目の学習指導

(1) 目標

- 相手を尊重し、積極的に学習に取り組むことができる。
- 小手に対して体をさばき面が打てる。

(2) 準備物 教師・剣道具(胴・垂)・学習カード・プロジェクタ・スクリーン生徒・手ぬぐい・ファイル・筆記用具

(3) 学習指導過程 (○配慮事項●おおむね満足できると判断できる状況 []評価方法)

学習内容及び活動	指導上の留意点及び評価
<p>1 準備運動をする。</p> <p>① 体操 ② スキルチェック</p> <p>2 映像から技を分析する。</p> <p>・一本に決まった場面の中から何の技を打っていたのかを見ておく。</p> <p>3 本時の学習内容と課題の確認をする。</p>	<p>○ 竹刀を振る時には、他のペアとぶつからないように周りを確認し、安全に配慮しながら行うように促す。</p> <p>○ どんな技が一本に決まっているのかを分析できるように見るポイントを随時指示する。「基本打突(面)に対して何の技を打っているか。」</p>
<p>小手抜き面を相手の動きに応じて決めよう。</p>	
<p>4 小手に対して抜き面の練習をする。</p> <p>① 教師の号令に合わせて一斉に練習を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「1」…振りかぶる 「2」…打ち込む 「3」…抜き切る</p> </div> <p>② 相手の動きに合わせてペアで練習を行う。</p>	<p>○ 教師が小手抜き面の模範演技を行い、生徒にイメージを持たせる。互いの間合いや打つ機会、体を一步退きながら振りかぶるタイミングを「1」「2」「3」のリズムで行うように指導する。</p> <p>○ 打つタイミングが掴めていない生徒には、「1」「2」「3」のリズムを一緒にかけながら、タイミングを掴ませる。</p> <p>○ 竹刀の打突部で面を捉えられていない生徒には、まっすぐに素早く振りかぶり、鋭く振り下ろすように指導する。</p>
<p>5 グループごとにポイントの判定を行いながら 抜き胴の練習をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【判定ポイント】</p> <p>① 気迫のある声のでているか。</p> <p>② 相手の小手打ちに対して、素早く一步退きながら振りかぶることができているか。鋭く一步踏み込み、面を打つことができているか。</p> <p>③ 打突後、気を抜かず残心までおこなえているか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4人1組で行う。(2人が審判) ・ 審判Aはポイント①、ポイント③を担当し、審判Bはポイント②を担当する。できていると判断したら赤旗をあげる。 <p>6 本時のまとめをする。</p> <p>① グループで学習を振り返り。ホワイトボードに記入する。</p> <p>② 個人で学習カードに記入する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>運動への関心・意欲・態度</p> </div> <p>●立礼を正しく行い、ペアで声をかけ合いながら学習に意欲的に取り組もうとしている。 [観察]</p> <p>○「気・剣・体」の一致を確認すると同時にもう一度、判定ポイント②を説明する。</p> <p>○判定に迷っているグループには教師が加わり、3人体制で判定を行うようにする。</p> <p>○活動が活発的に行われるように、グループの良いところを賞賛し、その良さを全体的に広げながら指導を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>運動の技能</p> </div> <p>●小手に対して、前後に素早く体をさばいて面を打つことができる。 [観察]</p> <p>○判定ポイント3つができていたら、「どのように工夫したら上手く打てたか。」を記入させる。</p> <p>○友だちからのアドバイスを参考に次の課題を学習カードに記入させる。</p> <p>○グループのホワイトボードを黒板に貼り、工夫点や課題を全体に共有するようにする。</p>

6-⑦ 7時間目の学習指導

(1) 7時間目の目標

- 相手を尊重し、剣道の学習に積極的に取り組むことができる。
- 相手の動きに応じて、面や胴を打つことができる。

(2) 準備物 教師…剣道具（面・胴・垂・小手・竹刀）・審判旗・ワークシート・ビデオカメラ2台
 生徒…手ぬぐい・筆記用具

(3) 学習指導過程 (○配慮事項 ●おおむね満足できると判断できる状況 [] 評価方法)

学習内容及び活動	指導上の留意点及び評価
<p>1 準備運動を行う。</p> <p>①準備体操</p> <p>②正面素振り</p> <p>③面打ち・胴打ち</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>○ 試合における有効打突を確認し、素振り、面打ち、胴打ちから大きな声と残心を意識するように促す。</p> <p>○ 対人練習の際には、初めと終わりに立礼を行うようにし、相手を尊重する態度を意識付ける。</p> <p>○ これまでに学習した技「しかけ技」「応じ技」を確認し、本時の学習課題につなげる。</p>
<p>相手の動きに応じて技を出そう。～団体戦Ⅰ 面・胴 No.1 チーム決定戦～</p>	
<p>3 チームでミーティング・練習を行う。</p> <p>(1) ルールの確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><団体戦Ⅰのルール></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各チーム4名で行う。(先鋒・次鋒・副将・大将) ○使用する技は、面・胴のみ。 ○審判員3名のうち2名の旗があがれば一本。「声」「姿勢」「打突部と打突部位」が判断基準 </div> <p>(2) ミーティング・練習を行う。</p> <p>①団体戦メンバー（順番）を決める。</p> <p>②練習を行う。</p>	<p>○ 面打ち、胴打ち、面抜き胴の動きとポイントを振り返り、相手の動きに応じて技を出すことを意識できるようにする。</p> <p>○ 審判の判定については、教師と生徒、または代表生徒2名で有効打突を示し、全員が判断基準を共有できるようにする。また、いつでも確認できるように各試合会場に板書で示しておく。</p> <p>○ チームでの練習方法については、「面（胴）・面抜き胴の対人練習」または「練習試合」を行うことを示し、スムーズに活動ができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>運動への関心・意欲・態度</p> </div> <p>● 仲間とともに積極的に練習に励んだり、アドバイスをしたりしている。 [観察]</p>
<p>4 団体戦を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><団体戦Ⅰの行い方></p> <ul style="list-style-type: none"> ○2会場、2練習会場を設置する。 ○試合時間は1分。 ○試合2チーム・審判1チーム・練習1チームで行う。 ○トーナメント方式。1回戦の勝者同士、敗者同士で第2試合を行う。決勝戦も行う。 </div>	<p>○ 試合会場、練習会場の距離、試合中に起こり得るケガ等について説明し、安全に試合や練習ができるように促す。</p> <p>○ 大きな声で応援しているチームやアドバイスを申し合っているチームを意識的に賞賛し、苦手な生徒が自信をもって取り組むことができるような雰囲気をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>運動の技能</p> </div> <p>● 相手の動きに応じて、面や胴を打つことができる。 [観察、ビデオカメラ]</p>
<p>5 本時のまとめを行う。</p> <p>・試合を終えて自分の動きを振り返るとともに、決勝戦の友だちの動きで気付いたことをホワイトボードとワークシートにまとめる。</p>	<p>○ 技を出すことができない生徒には、「しかけ技」か「応じ技」のどちらかを意識するように促す。</p> <p>○ 第1時から技能や態度が高まっている生徒を意識的に賞賛し、次時への意欲化を図る。</p>

6-⑧ 8時間目の学習指導

(1) 8時間目の目標

- 相手を尊重し、剣道の学習に積極的に取り組むことができる。
- 相手の動きに応じて、面や胴を打つことができる。

(2) 準備物 教師…剣道具（面・胴・垂・小手・竹刀）・審判旗・ワークシート・ビデオカメラ2台
 生徒…手ぬぐい・筆記用具

(3) 学習指導過程 (○配慮事項 ●おおむね満足できると判断できる状況 [] 評価方法)

学習内容及び活動	指導上の留意点及び評価
<p>1 準備運動を行う。</p> <p>①準備体操</p> <p>②正面素振り</p> <p>③面打ち・胴打ち</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 相手の動きに応じて技を出そう。～団体戦Ⅱ 面・小手 No.1 チーム決定戦～ </div>	<p>○ 試合における有効打突を確認し、素振り、面打ち、胴打ちから大きな声と残心を意識するように促す。</p> <p>○ 対人練習の際には、初めと終わりに立礼を行うようにし、相手を尊重する態度を意識付ける。</p> <p>○ 前時の団体戦を振り返り、技を出せずに試合時間を終えたこと等から「しかけ技」についても意識できるようにする。</p>
<p>3 チームでミーティング・練習を行う。</p> <p>(1) ルールの確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <団体戦Ⅰのルール> ○各チーム4名で行う。(先鋒・次鋒・副将・大将) ○使用する技は、面・胴のみ。 ○審判員3名のうち2名の旗があがれば一本。「声」「姿勢」「打突部と打突部位」が判断基準 </div> <p>(2) ミーティング・練習を行う。</p> <p>①団体戦メンバー（順番）を決める。</p> <p>②練習を行う。</p>	<p>○ 面打ち、胴打ち、小手抜き面の動きとポイントを振り返り、相手の動きに応じて技を出すことを意識できるようにする。</p> <p>○ 審判の判定については、教師と生徒、または代表生徒2名で有効打突を示し、全員が判断基準を共有できるようにする。また、いつでも確認できるように各試合会場に板書で示しておく。</p> <p>○ チームでの練習方法については、「面（小手）・小手抜き面の対人練習」または「練習試合」を行うことを示し、スムーズに活動ができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 運動への関心・意欲・態度 </div> <p>● 仲間とともに積極的に練習に励んだり、アドバイスを行ったりしている。 [観察]</p>
<p>4 団体戦を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <団体戦Ⅰの行い方> ○2会場、2練習会場を設置する。 ○試合時間は1分。 ○試合2チーム・審判1チーム・練習1チームで行う。 ○トーナメント方式。1回戦の勝者同士、敗者同士で第2試合を行う。決勝戦も行う。 </div> <p>5 単元のまとめを行う。</p> <p>・単元を終えて、剣道の授業で学んだことをワークシートに記入する。</p>	<p>○ 試合会場、練習会場の距離、試合中に起こり得るケガ等について説明し、安全に試合や練習ができるように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 運動の技能 </div> <p>● 相手の動きに応じて、面や胴を打つことができる。 [観察、ビデオカメラ]</p> <p>○ 技を出すことができない生徒には、「しかけ技」か「応じ技」のどちらかを意識するように促す。</p> <p>○ 単元を始める前の剣道に対するイメージを思い出させ、自分の中の変容に気づきやすいようにする。</p>